



Agenda

4 ICT教育

ICTメディアリテラシーを学ぶことで、生徒の「伝える力」を伸ばします。

インターネットやスマートフォンなどのICTメディアの利用が急速に拡大し、コミュニケーションの手段が多様化する現在、ICTメディアを適切に活用する能力を中学生の段階から身につけていくことが求められています。

桐蔭学園では2015年度の中学・中等新入生より一人1台タブレットの使用を開始するのを機に、ICTメディアを利用した教育を導入します。まずは、インターネットを安全に使う方法や守るべきマナー、情報の取り扱い方についての理解を深め、タブレットの基本的な使い方を習得する機会を設けていきます。そして技術科、情報科の授業の中で、表計算やプレゼンテーションソフトウェアなどの使い方を学び、基礎的なICTメディアリテラシーを育成します。

タブレットの導入により、日々の授業の中での情報収集や発表内容の共有など、ICTメディアを活用した学習の幅が大きく広がります。タブレットには、写真や動画、テキストを簡単に組み合わせ伝え合うことのできるソフトウェアを導入します。このソフトウェアを使うことで、生徒が授業で学んだ内容を発表したり、自分の意見を考えながらまとめ、分かりやすく表現したりする力を育てていきます。

アクティブラーニング型授業の実践の中でこうした発表の機会を設けるとともに、学園祭、課題研究、グループ研究といった学校生活の様々な場面を通して、生徒の創造力、表現力、コミュニケーション力を伸ばしていきます。

学園祭CMづくり

毎年9月に行われる学園祭では、その年ごとに生徒たちがテーマを決め、様々な新しい試みを行っています。2014年の女子部の学園祭「鸞鳳祭^{らんほうさい}」では、パンフレットだけでは伝わらない各企画の魅力を伝えようと、中学1年生から高校2年生までのクラスや部活動の企画を紹介するCMを作成しました。学園祭実行委員の広報担当者のリーダーシップのもと、中学生のクラスの撮影を実行委員が手伝ったり、高校生はフリーソフトをうまく活用し動画を編集したりと、それぞれに個性ある企画紹介を作成しました。学園祭当日には、多くの来場者の方が足を止めてCMを見て下さり、生徒も満足 of 企画となりました。

